

韓国環境部プレスリリース 2020年3月6日付

江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 315-320 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1343390&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は3月4日～5日に江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゲン）華川邑（ファチョンウプ）で発見された野生いのしし死体6個体からASFウイルスが検出されたと3月6日明らかにした。

国立環境科学院は3月6日死体6個体からASFウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョンゲン）130件、漣川郡（ヨンチョンゲン）100件、坡州市（パジュシ）68件、鉄原郡（チョルウォンゲン）22件、合計320件の野生いのししASFが陽性になった。

野生いのししASF標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院は「今回陽性になった死体は全て広域フェンスの中で発見された。既存感染個体発見地点から130m～900m離れたところであった。この地域では感染死体がさらに出てくる可能性が高く、徹底的に捜索している」と明らかにした。

以上